

2022年6月9日(木) 19:30~21:00

令和4年度

第2回 セミナー 学級の困った！を一人で抱え込まないで

議事録作成 玉置ゼミ7期生 下野綾巳

【今回の困りごと】

▼願いの優先順位 (6年生)

誰かやるだろうと思って、自分から動ける子が少ない。

気づいているはずなのに、見て見ぬふりを感じる。

▼笑顔を褒める (1年生)

友達との会話は楽しく出来るが、先生が話すと固まって無表情・無反応の子ども

▼遅刻する子ども (3年生)

遅刻の多い児童への声かけ

▼声の小さい子ども (5年生)

声の小さい女の子への指導・支援

【内容】

▼願いの優先順位 (6年生)

誰かやるだろうと思って、自分から動ける子が少ない。

気づいているはずなのに、見て見ぬふりを感じる。

➡・活動：意欲的 / 日常：見て見ぬふり

- ・例) 落ちているものを拾わない

欠席者のプリント 前の座席の子が回すのか、後ろの座席の子が回すのか

- ・出来ている子を価値付けているものの、なかなか広がらない現状
- ・誰かのために動くこと=尊いこと その価値に気づいて欲しい
- ・持ち上がりの学級で、今年は動くことを待ちたい

《他の先生方のご意見》

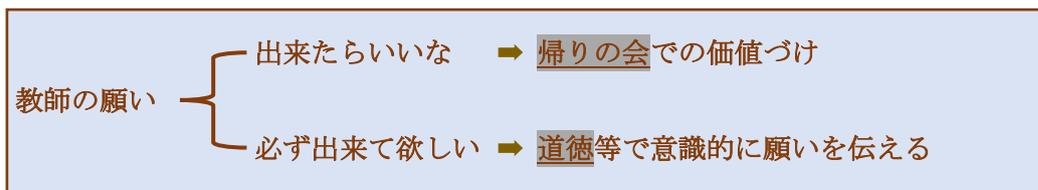
- 細かく見取っているからこそその悩み
- 面倒だから「見て見ぬふり」をしているのだろう
- 気づいていない可能性もある
- 6年生なら「見て見ぬふり」をするのもあるのではないか
- 自分(教師)が動いてしまう

→自ら動くよう待つことも大切だが、教師が良い姿を見せることも大切

《和田先生のご意見》

●学級が、子どもが、安定しているからこそその悩み

●願いの位置づけ



教師が願う子どもの姿「願い」の優先順位によって対応を変容させる
＝教師がモヤモヤすることなく、日々を送ることができる

《玉置先生のご意見》

●「なぜ振り返りをしているの？」の事例

学びの振り返りをする子どもに「なぜ振り返りしているの？」と問うと、、、

「振り返りは大切です。後から見返せるし、自分が何を学んだか分かる。」と返答。

活動（事例では、振り返り）の意義を教師が説明していた！！

→なぜその活動をするのか？

子どもには、1回説明するだけでは、趣旨が伝わらない

教師が子どもに「願い」を持った時、こまめにその意味を伝えていく大切さ

▼笑顔を褒める（1年生）

友達との会話は楽しく出来るが、先生が話すと固まって無表情・無反応の子ども

→・対大人になると無表情・無反応 / 友達とは会話できている

・教師の質問の内容が理解できていないのかもしれない

・学力は低い、分かったことは発表することができる

・困ったことに対して、「〇〇先生」と名前を呼んでくれるようになった

《他の先生方からの質問》

● Q. 目線を合わせるといったことは、教師同士で共有しているのか？

→同様の子を受け持ち、「目線」を合わせることを大切にしていることから

A. 保育園の頃から注意を受けており、大人に対して恐怖心があったかもしれない。
4月は、注意をしており威圧感を感じさせてしまっていたと感じる。
今は、日常で話しかけ2ヶ月経ち、名前を呼んでくれるまでになった。

● Q. 申し送りはあったのか？

A. 申し送りは、なかった。

事情を聞くと、心を開いて話してくれるまで2年かかったそう。

● Q. 本人に感情を表す手段はある？

A. 自分が受け入れた友達にのみ感情を表している様子がある。

《和田先生のご意見》

● 家庭環境に問題

大人からの愛情の受け取り方を知らない

● 笑う理由

子どもが笑顔を見せた時、「面白かったよね、先生も笑っちゃった！」等
子どもの笑顔に賛同する。笑顔を褒める。

人の「泣く」行為には、共通の理由がある。
人の「笑う」行為には、それぞれの理由がある。
人が「笑う」時、そこにその人らしさが出る。

▼遅刻する子ども (3年生)

遅刻の多い児童への声かけ

➡・4月～6月 半分は遅刻

- ・時々、時間通りに登校出来たときは褒めて価値づけている。
時間通りの時は、活躍する場面が増える。(学力に問題なし)
- ・兄は、遅れてこないこともある。弟は置いていく癖がついている。
- ・プレッシャーを与えすぎてもいけないが、このままの現状にはしたくない。
- ・「遅刻しても良い」という家庭の考え

《他の先生方からの質問》

● Q. 悪びれる様子はあるのか？

A. 4月の段階では無かった為、「良くないこと」という姿勢の表し方を癖づけた。

● Q. 昨年の様子はどうだったのか？

A. 昨年も半分程度遅刻。

保護者からの連絡もなく、その後も連絡がつかなかった事もあった。

《他の先生方のご意見》

●学校に来ているなら良い

➡・来ているうちは、良い。

・周りが「遅刻」に対して責めることがなければあまり気に留めなくても良い。

・本人が時間通りに来たいと思っているのであれば、力を貸したい。

《和田先生のご意見》

●保護者の価値観は変容しない

・遅刻してもテストは 80 点

・友達との関係も良好

・活躍できるほど、能力がある etc...



困りごとがない

●時間割の調整

朝が苦手な子の好きな科目を早い時間帯（1 時間目・2 時間目）に意図的に移動させる
学校に来る楽しみを工夫する

●欠席ゼロ

学校に来ることが立派

学力もあり、活躍できるならば休んでも良いはずなのに学校に遅刻でも登校している。

=魅力的な学級だから

●防犯面

「一人で学校に来るとき、事故や事件に巻き込まれたら心配。」

=教師も心配・友達も心配する とアプローチする

▼声の小さい子ども（5 年生）

声の小さい女の子への指導・支援

➡・友達と話している時も小さい

・会話を拒否する様子もなく、学力も高い。

・保護者「声が小さくても、考えているのであればそれで良いのでは？」

・他の子には、「大きな声でハキハキと」と指導するが、その子だけ良いか。

《他の先生方のご意見》

- 声が出ないことも個性
 - ➡ ・ 声が小さいことは仕方がない
 - ・ ポータブルマイクを使っても良いことにしている

- Q. 音楽の時間はどうしているのか？
- Q. 本人が声が小さいことをどう捉えているのか？

《和田先生のご意見》

- 女の子は思っているよりも話すようになる

- 生きていく上で声を出していかなければならなくなる

- **子ども自身を褒める**

声が小さくて聞き取れないのであれば、「考え」を学級の友達や教師が学級内で
拡げることで、**その子自身を褒め認めたこと**になる。

《玉置先生のご提案》

- 上手な朗読を家でタブレットに録音してくる課題
みんなの前でなければ声を出せる可能性もある。